

養殖漁場改善研究

(予算区分 交付金 研究期間 平成18年度)
担当：水産試験場沼津分室

【研究の背景とねらい】

平成11年5月に施行された持続的養殖生産確保法に基づき、海面養殖漁場の環境改善と持続的利用を図るため、内浦・静浦漁場改善計画が平成14年度に策定されました。この計画の効果判定のため、養殖漁場において底質環境のモニタリングを年2回行います。

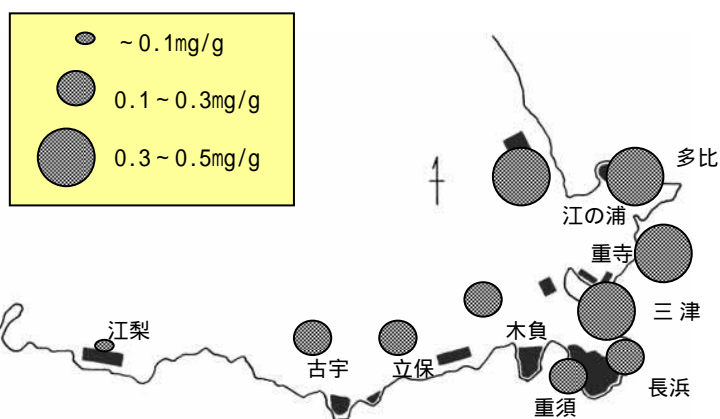
【研究成果】

内浦湾内の10地点について、底質の硫化物量と底棲生物相を調査しました。

硫化物量は、江梨など湾口に近い地点では低く、湾奥の江の浦・多比などで高い傾向が示されました。底棲生物は、湾全体として多毛類が優先的に出現し、やや汚染された環境であることが分かりました。18年度は18年10月、19年2月に調査を行いました。これまでとほぼ同様な傾向が見られました。



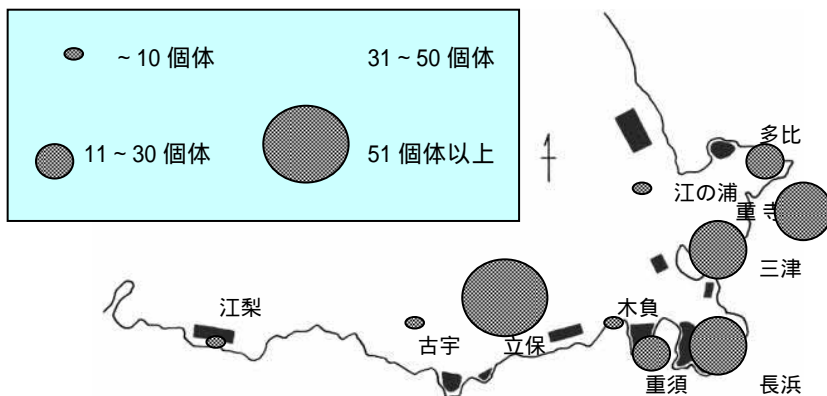
底質調査（採泥器）



各養殖場の揮発性硫化物量（平成18年10月調査結果）
（番号：調査点 : 養殖漁場）

平成18年10月の底棲生物の種組成 （全海域合計312個体中 %）

環形動物	94.5
節足動物	1.7
軟体動物	1.7
刺胞動物	0.7
へん形動物	0.7
ひも形動物	0.7



各養殖場の底棲生物個体数（平成18年10月調査結果）
（番号：調査点 : 養殖漁場）

【今後の計画】

普及事業の中で今後も調査を継続し、逐次その成果を普及指導します。

（作成 平成19年3月）